

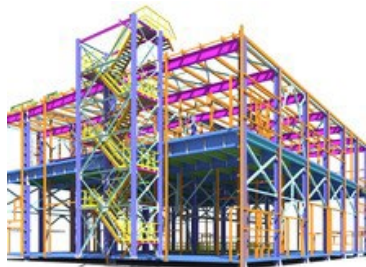
事業展開等リスキリング支援コース：BIM/CIM活用

会社概要

企業規模：中小企業

従業員数：27名

業種：建設業（総合工事業）



助成金を活用するに至った背景事情

これまで2次元図面を用いてクライアントにプレゼンを行っていたが、わかりやすさと3D-CADの普及により、クライアント先から3次元立体図面によるプレゼンを求められるようになった。

企業におけるデジタル・DXの取組内容

BIM/CIMを導入し、3次元モデルを活用して、建設生産・管理システム（調査・計画、設計、工事、維持管理の工程）においてより具体的なイメージをもって確認・提案作業を行えるようにして、業務効率化を目指す。

人材開発支援助成金の活用

教育訓練の内容

- ・ 教育訓練機関：外部教育訓練機関
- ・ 受講コース：施工BIM/CIM総合研修
- ・ 訓練時間：20時間
- ・ 訓練内容：i-ConstructionにおけるBIM/CIM活用の実務習得

助成金のコース

事業展開等リスキリング支援コース

事業展開やDX・GXに伴い新たな分野で必要となる訓練を実施した場合に、助成が受けられる訓練メニューです。

助成率・額

<OFF-JT>

経費助成 75%(大企業60%)

賃金助成 1,000円(大企業500円)/h

助成金の額（1企業当たり）

助成金の対象となる経費、賃金助成

- 1 施工BIM/CIM総合研修：440,000円
(220,000円×2人、税込み)
- 2 訓練時間に対する賃金助成：1,000円/h

支給額

<OFF-JT>

1 経費助成：330,000円
(220,000円×75%×2人)

2 賃金助成：40,000円 (20h×1,000円×2人)

支給総額 370,000円

訓練の効果

従業員2名が施工BIM/CIM総合研修を受講したことにより、計画・設計段階から3次元モデルの活用が可能となったため、維持管理を前提とした設計の提案が可能となるなど、建設生産・管理システムの効率化が図られた。

今後の展開

中小企業において、効率的で質の高い建設生産・管理システムの構築は必須であり、今後も可能な限り多くの従業員に受講させたい。

人材開発支援助成金活用事例

事業展開等リスティング支援コース：ドローン操縦

会社概要

企業規模：中小企業

従業員数：36名

業種：建設業（設備工事業）



助成金を活用するに至った背景事情

建設業界において、人手不足の中で業務の効率化が求められ、ドローンによる測量や施工管理等が進んでいる。当社も作業効率化のために導入必須の状況となった。これまでは費用面で1名のみの受講を考えていたが複数名の受講を検討出来るようになった。

企業におけるデジタル・DXの取組内容

ドローンを導入することにより、全体的な出来栄確認等可能になることで出来形管理、工程管理の効率化を図る。

人材開発支援助成金の活用

教育訓練の内容

- 教育訓練機関：外部教育訓練機関
- 受講コース：ドローン技能講習及び安全運航管理者講習コース
- 訓練時間：28時間
- 訓練内容：ドローンの飛行に必須となる法令の知識やドローンの機体の点検方法、シミュレーターを使うなどの飛行訓練を受講し、ドローン操縦民間資格を取得する

助成金のコース

事業展開等リスティング支援コース

事業展開やDX・GXに伴い新たな分野で必要となる訓練を実施した場合に、助成が受けられる訓練メニューです。

助成率・額

<OFF-JT>

経費助成 75%(60%)

賃金助成 1,000円(500円)/h

助成金の額（1企業当たり）

助成金の対象となる経費、賃金助成

- 1 ドローン講座：198,000円（1人分、税込み）
- 2 訓練時間に対する賃金助成（中小企業：1,000円/h）

支給額

<OFF-JT>

- 1 経費助成：297,000円
（受講料等（受験料を含む）×75%×2名）
- 2 賃金助成：56,000円（28h×1,000円×2名）

支給総額 353,000円

訓練の効果

業務にドローンを導入することができたため、工事の全般的な出来栄の確認が可能となり工程管理が効率化された。また公共工事の工事成績評定で創意工夫の加点が期待できている。

今後の展開

ICT施工を進めていく上で、助成金活用によりドローン技能はもとより、その他の技能取得も検討できるようになり、業務効率化とともに計画的に人材育成に取り組んでいきたい。

人材開発支援助成金活用事例

事業展開等リスティング支援コース：建設ディレクター育成

会社概要

企業規模：中小企業

従業員数：129名

業種：建設業（総合工事業）



助成金を活用するに至った背景事情

建設現場における現場技術者の書類作成業務の負担による長時間労働が課題となっていたことから、デジタル技術を活用した建設現場の書類作成支援を行うこととした。このため、当該業務に必要な知識を身につけるための訓練の受講が必要となった。

企業におけるデジタル・DXの取組内容

建設現場担当者以外でも作成可能な書類も多いことから、ITスキルに加えて建設業の知識を持った人材を育成し、社内の働き方改革を推進する。

人材開発支援助成金の活用

教育訓練の内容

- 教育訓練機関：外部教育訓練機関
- 受講コース：建設ディレクター育成講座
- 訓練時間：24時間
- 訓練内容：建設業の書類作成等の事務に必要なIT技術（工事写真の加工やクラウドデータ管理方法等）及び施工管理手順や各種書類作成等の建設業における基礎知識の習得。

助成金のコース

事業展開等リスティング支援コース

事業展開やDX・GXに伴い新たな分野で必要となる訓練を実施した場合に、助成が受けられる訓練メニューです。

助成率・額

<OFF-JT>

経費助成 75%(60%)

賃金助成 1,000円(500円)/h

助成金の額（1企業当たり）

助成金の対象となる経費、賃金助成

- 建設事務担当者育成講座：
1,320,000円（4人分。税込み）
- 訓練時間に対する賃金助成
（中小企業：1,000円/h）

支給額

<OFF-JT>

1 経費助成：990,000円
（受講料等（受験料を含む）×75%）

2 賃金助成：96,000円（96h×1,000円）

支給総額 1,086,000円

訓練の効果

訓練を通じて建設事務に必要なITスキルと知識を習得したことで、建設現場の書類作成業務等を行うことが可能となり、業務効率化や生産性の向上、現場の長時間労働の是正が図られた。

今後の展開

建設現場の書類作成支援等において、訓練により習得した知識やスキルを効果的に活用し、現場支援業務を積極的に推進していく。